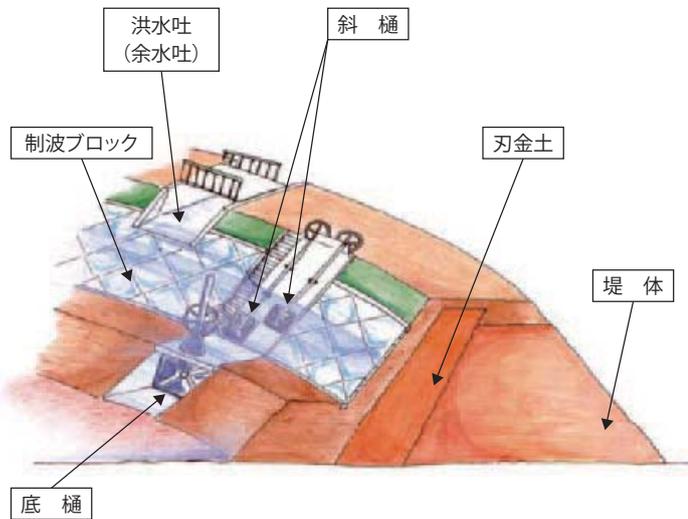


ため池の役割と構造

ため池の役割

- ①ため池は、農業用水の確保を目的として、人工的に造られたものです。
- ②大雨時には、一時的に雨水をため池に溜めることで、下流への洪水を少なくします。
- ③家屋などの火災が発生したとき、消火用水として利用されます。
- ④ため池は多様な生物のすみかとなっており、豊かな自然を育んでいます。
- ⑤ため池にまつわる言い伝えや祭りがある池もあり、地域の文化資源となっています。
- ⑥水辺空間を利用し、地域の憩いの場、交流の場となっており、人々にゆとりとやすらぎを与えています。
- ⑦地下水のかん養（溜められた水がゆっくりと地中にしみ込み地下水のかん養に役立つ）

ため池の堤体の構造



■ 桜池（北志野）

用語

- 堤体（ていたい）……………土を締めかため盛り土した堤防。
- 刃金土（はがねど）……………水を通しにくい粘土を突き固めたもの。
- 洪水吐（こうずいばけ）……………余分な水を安全に下流へ流すための放水路。
余水吐（よすいばけ）とも呼ばれます。
- 斜樋（しゃひ）……………ため池の水を取水するためのもので、水道の蛇口のようなもの。
- 底樋（そこひ）……………ため池の底にあり、ため池を空にするための排水口。
- 制波ブロック……………波浪による波で、堤体が侵食されるのを防ぐもの。